

みぞくちミニ新聞

発行元
みぞくち

購読無料
毎月発行

未曾有の災害

みぞくちの活動

極力普段通りに

岡山県としては未曾有の災害が7月上旬発生した。倉敷市真備町では河川の決壊による甚大な浸水被害。さらに県下いたる所で浸水や土砂崩れにより、交通網をはじめとするライフラインが寸断された。

みぞくちの所在する場所では特別な被害は無く、事業所も連休明けから通常の開所が行なえた。利用者の方には直接の被災はなかったものの、鉄道の不通や通行止めではしばらく休まれる方もいた。職員では真備町在住の方がおり、床上までの浸水被害にあった。また、総社市下原地区ではアルミ工場の爆発があり、近隣の職員の住宅も爆風の被害を受けた。現在も復旧中である。

災害発生から数日後の連休明け、みぞくちは普段通りの活動を始めた。利用者の皆さんの不安をおおらなための配慮、極力いつもの様に。

高梁川を挟んだ向こう側は大惨事、自衛隊や警察、消防とあらゆる機関が被災地の救助と応援に向かった。当然交通渋滞は日常的に起こり、みぞくちの前の道路も例外ではなかった。そのうちボランティアの方々も復興支援に向かうようになり、真備町へ向かう道路は時間によっては大渋滞になった。空からは毎日幾度となくヘリコプターの音がし、同時に被災地の状況をテレビで映す様になっ

て、ただ事ではない様子がひしひしと伝わった。

また、送迎に使用する道路も土砂災害の為通行止めがあり、大回りをしての送迎をしばらく続けた。

特に新見から勤めている森田サビ管は、新見への道路が遮断されたため、一週間程度総社市での生活を余儀なくされた。様々な場所で様々な人が苦勞をしていた。

復興ボランティア

それぞれができる事を

7月末、岡山県知的障害者福祉協会が組織した災害復興ボランティアチームが活動を始めた。県下の協会加盟事業所の有志が応募した。森田サビ管や所長も予定の混んでいない日に参加。軽トラックに乗込んでゴミ出し作業が中心となった。所長が応援に行った場所は真備町内のA型事業所。ビニールハウスの掃除やゴミ出しであった。普段から公園掃除などで暑さには慣れていたものの、尋常ではない暑さ。今年初めて暑さでご飯が食べられな

い日となった。復興作業は体が動けば出来る作業だが、あまりの暑さでその体が動かない状態。所長自身も年齢と体力の衰えを感じたが、何よりこの暑さの為に熱中症もしくはその手前の状況に近づいた、恐怖も覚えた。

被災された方々はこれからも何日も何日もかけて生活を立て直していく。無理をしないで欲しい。そして、私たちもできる事は微力ながら継続してやっていきたい。

スイカとメロン実りました

毎日就労の皆さんが畑の実り具合を確認する。

「なつとるが!!」

「こけーもあるで!」

「いつ採れるん?」

岡山弁全開で教えてくれる。今は、スイカが8

個実っている。隣ではしべたい「メロンも好き」ばらばら着実の兆しのなか等々、いろんな声を聴く。つたメロンが2つ実った。何とか形になって所する人はいない。長一安心。

生活の皆さんにも作物 食べてもらう事を一番と話をする。「スイカ食しよう。」

まあいいか、美味しく